

令和6年度 学校評価書(共通) 前期

校名

宇和島市立吉田小学校

1 自己評価書

教育目標 地域を愛し、はつらつと生きる児童の育成						
基本方針 吉田小学校54年間の歴史と伝統を受け継ぎ、愛媛県教育委員会並びに宇和島市教育委員会の基本方針に基づき、「地域を愛し、地域と共に生きる児童の育成」を目指した学校経営に努める。体験学習を重視し、「学びと実践」を繰り返すことにより、「吉田力」より一層の深化に努める。						
本年度重点目標 「豊かな心の醸成」「確かな学力の定着と向上」「たくましい実践力の育成」						
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施		後期の み	
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B	
		ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B	B	
		一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C	
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C	
	④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C C	C	
	⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B	
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を計画的に行い、話し合い活動を中心とした授業展開は工夫できたが、深い学びを実現するまでには至っていない。 ・家庭学習ががんばり週間等で家庭で学習をすることの習慣化は図れているが、予習や復習を自主的に行う児童の割合が少なかった。 ・タブレットの使用頻度は向上したが、効果的な学習を進めるまでには至っていない。 ・みきゃん通帳の活用は定着しつつあるが、読書に対する評価が他の項目に比べて低い。 ・地域人材を活用し、基幹産業についての学習を進めることができた。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習ががんばり週間の結果を家庭へ周知し、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。 ・すららドリル活用に向けた研修を行い、個に応じた学習や予習・復習への意欲化を図る。 ・深い学びの実現に向けて、引き続き授業改善に努める。 ・本の整理を行い、本を探しやすくなったので、引き続き、啓発、読み語り、みきゃん通帳の積極的な活用等を通して、読書に対する意欲向上に努める。 					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B
② 児童生徒の健全育成		児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C	
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	C B B	B	
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	C B C	C	
③ 関係機関との連携		スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	C B B	B	
④ 自己肯定感 等		自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	C B	C	
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	C B		
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その都度声掛けや指導を行うことで、規範意識は高まりつつあるが、定着できているとは言えない。 ・問題を抱えている児童が多く、学級担任の負担が大きい。不登校児童への対応が難しく、状況改善には至っていない。 ・諸問題についての情報共有はできていない。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、声掛けや教職員が模範を示すことで、規範意識の向上を目指す。 ・メタサポキャンパスの活用やわかたけなど、関係機関との連携を図り、問題を抱えている児童へ寄り添う支援を行う。 ・教職員間での情報共有をさらに図り、必要に応じてケース会議などを積極的に行うなどチームとして児童に寄り添う支援を行う。 						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B
	②	働きやすい環境づくり 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	C	C
			・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実 教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	C	C
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間80時間を超える教員が数名いる。 ・校内の諸問題については、学級担任が抱え込まないようにチームとして対応できた。 ・休業日の活動については、規定に沿った形で計画的に運営できた。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度からの新体制に向けて、専科教員や支援員等の充実が図られるように積極的に依頼する。 ・休業日の活動については、必要の有無を適切に判断して行う。 ・保護者への案内文書は、マチコミメールへ添付するなど、印刷や配付への負担を軽減する。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。 学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	C
			・教師アンケート	C	
			・保護者アンケート	B	
			・地域アンケート		
②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート			
③	来校・相談体制 来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・地域アンケート			
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を活用し、閉校に向けての話し合いを進めることができた。 ・5・6年生を中心にPTAと連携し、地域種目を取り入れた運動会を開催することで、地域との交流を図ることができた。 ・ホームページや学校だよりでの定期的な情報発信や来校者への丁寧な対応ができた。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の教育活動も広く地域へ周知できるように工夫し、地域を巻き込んだ形での学校行事を実施する。 ・引き続き、ホームページや学校だよりでの定期的な情報発信や来校者への丁寧な対応を意識して行う。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満